



一

延和氏書

● 太上天皇

養乃卷小御位と力所て行なは
る此の卷に之を録す

前坊 改院の御もくわらむの御もくわらむ

秋好中官 母三條御息所

養乃新言おたら給ふ御付くには之を
御守給繪合に内は給て梅は御守
るありし中言おたらに皇孫言おたら

桃園部御言 う給給くしる言おたら

権斎院

柳の賀深の御言おたら
御守よりて行なは給る一
言おたら

三宮

院の御言おたら
御守よりて行なは給る

太上天皇

養乃卷小御位より引て折なむ
う紀の巻に之を結ぶ

前坊 改院の御もくわ

秋好中宮

母三條御息所

養乃新まおたら給ふ御付くには之を
御守給繪合に内へ給給て梅は御守
そりの中まよまのりに皇孫まあ

桃園部御女

う給給くしるす

権斎院

柳賀殿の御まよのり
御那よりて折る給給る
まのりいす

三宮

院の御まよのり
まのりか

女史

まのりまよのり

朱雀院

母三條御息所

桐は乃巻の春宮あり
御守の御まよのり
御守の御まよのり
御守の御まよのり

三宮

院乃とて山脈に楳敷の山方なり給ふ
くく内よりかき給

女三美

も園乃まゝす給ふあさりて

半権院

母山御殿大坂

桐はかり巻く春宮ありて山信は給
し御守りてはまゝなりては
ゆりたりて西山にはまゝ海を多同
たる古権院山智のありて院より世み

今上

母美香殿女御

ありて巻く二殿の山みと給くは美
梅枝の山元服もれり下に信はつ給ふ
女一宮 もろ家の上りて

藤葉文 母一深山自息

わろみ下りてわろみなる在量等の山言
ありてはらり夕雲は待たてし給

二品内親王 母先帝御女

若葉はらり古権院はもろ同下には
もろ六柏木乃巻くはらり給

女四美 もろおれらり

春宮 母明石中女

若葉はらり生乳給て園下は場より給

白雲御女 母美香殿女御

白雲巻に夕霧の中志保はては藤院の
まことと中と赤州給は美とて中
まけりなり

白雲御女 母山

右大將同下下大細言して在る物下物也

白文奏より大右大臣大右市川下大右大臣大右

兼右大將 母生権院女之矣

白文奏より元服して四位侍臣として中其

秋右大臣中右因奏して侍臣として事奉す

あり中右市川下中細言するあり其の二行儀

物下権大細言して大右大臣と云ふ

明石中官 母出なり

三行儀は此三月に明石乃備して生れ多

松尾下京小の御りて大井に復る所也

三行儀は此三月に明石乃備して生れ多

淑景會と同中細言して中其白文奏より

皇太后御矣

右衛門督 母三條

若菜下生権院の御りて時よりして

ありて女業の夜播布して中其白文

卷のりゆりて日出仕する人又白文奏より

字作也して女業の御りて日中其の御

はしてまゝなりて一經角乃卷にして

中細言 母若内侍

六條院の御りて御りて中其の御

治下若菜権院の御りて御りて御りて

日め女業としてあり給して若菜下に中

白文奏より此の御りて白文奏より同

出仕する人

石大辨 母三條

白文乃奏より此の御りて日出仕する人

推して宮庭の御りて御りて御りて

り下に三條若菜の御り

白美卷をとりゆきの白美のついでに
出仕する人

石大辨 母之系上

白美の巻をとりゆきの白美のついでに
推しむる宮庭へ参りたる人
ゆきに白美の巻をとり

侍信実相 母不實

推しむる白美の巻をゆきに
ゆきに白美の巻をとり

源実相中侍 母之系上

ゆきに白美の巻をゆきに
中侍の推しむる白美の巻をゆきに
ゆきに白美の巻をゆきに
ゆきに白美の巻をゆきに
ゆきに白美の巻をゆきに

頼中侍 母之系上

市門下侍の推しむる白美の巻をゆきに
頼中侍の推しむる白美の巻をゆきに
ゆきに白美の巻をゆきに
ゆきに白美の巻をゆきに

信女侍 母之系上

一馬文の推しむる白美の巻をゆきに
中侍の推しむる白美の巻をゆきに
ゆきに白美の巻をゆきに

童 母

ゆきに白美の巻をゆきに

給仕の推しむる白美の巻をゆきに

春宮女侍 母之系上 白美の巻をゆきに

中侍 母之系上

三老 母之系上

中君 母之系上

童母

十よりある今上り女二名あり元々

給付三子あり言ひたり人七名あり

春宮女御母之系上白美乃巻に喜多入

中老母抄

三老母抄内約

四老母之系上

五老母抄 以上三人夕暮巻に三子

六老母抄内侍

下よりある白美乃抄にあり

螢皇御系

色々の御美し女に朱雀院乃山幸村時

長久の御系を記すにあり

侍母の御系

梅之指に二雁記より父乃山幸村時

よりあり

童官

同 此二人は葉下、朱雀院乃山幸村

御系に万部系にあり

官御系 母抄にあり

又美し給て後母老より紅梅抄也

乃大納言此より後母老白美乃系

御系にあり

四女 母系書系女御

御系にあり

師官

常に古系乃馬場乃抄より見在

よりあり

八宮 母大屋女

中宮の御人

中宮 母弟吉成女御

御言
中宮の御人
中宮の御人

中宮の御人
中宮の御人

中宮 母弟吉成女御

中宮の御人
中宮の御人

中宮 母弟吉成女御

中宮の御人
中宮の御人

中宮の御人
中宮の御人

中宮 母弟吉成女御

中宮の御人
中宮の御人

中宮 母弟吉成女御

中宮の御人
中宮の御人

中宮 母弟吉成女御

中宮の御人
中宮の御人

中宮 母弟吉成女御

中宮の御人
中宮の御人

侍臣 母の少言

官者 母打新

ら美く也給く後あり此一昌之なり
給くはく大物とわらう人

冷泉院 母藤重女院

雲に美美と御つくし山良信之葉乃
下りたり力給くしつりあり

一官 母藤重大臣女

生息給くし市門の三印

女一美 母給く大臣女

一とくしりあり

女二官 母一美打新

市門の生れ給く是く一美あり

一昌官 母藤重院下印

女一美く一ふりりしとれあり

女二美

前新院

美く賀祝くしはるに力給くし院
の門那よりて折り給く給く女之美あり

先帝

武部卿官

とくはの給くし同くし女武部卿官

藤重女院

桐重下内し美り給く藤重とくし

紅葉給くし美美なり母女院とくし

三とれはら柿と折り給く給く

くく右上天皇に美り給く給く

美り藤重と美り給く

源氏官 母更衣

美推流美美なり給く給く給く女

振舞下内(年)給て藤重と云ふ
紅葉好く喜まふ乃母世門と云て
三三三と云ふ抄に抄り抄り給て
くくく上天皇に御すくく給て
新の唐の書に巻に之目録

源氏宮母更衣

朱雀院美美乃御より美り給て母
三三三と云ふ給て重と云ふと云ふ
くくく家と云ふと云ふ

源中御云

少くく御・たそ果治梅くく
くくく御給人な果たりくく
思ひ給

若君朱雀院御買乃御業の目白麻布
中御

侍臣

民部左捕 臣上之人くく
くく御時又くくくく

髯里大將室母

大御くくくく所くく人

紫上母梅家大御云母

十くくく御成は君はくく始
字く果くくく海くくく
くく給

冷泉院女御髯里乃女言山印

くくく入乃御はくく御此君
御くく紫乃くくくく

常陸文

阿耨梨 源氏乃御はくくく

之是也

冷泉信女所母髻是乃古方山印

し女は入内之御守なりし中此書に之が三
御守は甚る上よりしるすに印

常陸美

阿國朝臣印乃所御守なりし之に印
乃印は古きありし御守なり

蓬生君 未摘花乃巻に信印書しあり
しりし事既しるしありし

橋政古政大臣

桐葉下大長子に信印乃書しあり
し人しるす本乃巻に信印書しありし
古政大臣に橋政一掃首を言し印
あり

致任古政大臣母之

桐葉下致任の母是本に頼守御守
ありし之印信下御守に宰相御守なり
しに橋中御守に言しに橋大御守に
古政大臣は言しに御守に表しありし
乃印信を御守に言し白文巻に印

左中辨

若葉下小山原成乃所御守なりし人
なりし中辨御守に言しありしに言し
此人は一人に言し乃巻に致任御守なり

藤大御守

春官大史

世に人信印之御守なりし御守に信印乃
印しるすは御守に言しありしに御守に
書しありし御守に言しありしに御守に

藤大納言

春官大史

此人多一人少形乃考之其人辨也
世二人藤氏之藤氏もより時時往々
相もいふは藤氏もより時人の印藤氏
君達もいふは藤氏もより藤氏もより
此人もより藤氏もより藤氏もより
たもいふは藤氏もより藤氏もより

藤上母相国同

あつひ乃考之夕音もより藤氏もより

柏木権大納言 母二藤大政大臣四女

し女・た也女物・そふ・たも中物なり決
頼中將若菜ら・宰相志重藤氏同
権中納言柏木考之・この印は権中
もいふは藤氏もより藤氏もより

紅梅右大臣母同

柳木もより藤氏もより藤氏もより
乃月たもより藤氏もより藤氏もより
初子・辨將若菜ら・頼辨同下
たもいふは藤氏もより藤氏もより
まもいふは藤氏もより藤氏もより
いもいふは藤氏もより藤氏もより
み印市門・藤大納言たもいふは藤氏もより
はもいふは藤氏もより藤氏もより
はもいふは藤氏もより藤氏もより
はもいふは藤氏もより藤氏もより
はもいふは藤氏もより藤氏もより

大史

乃考之夕音もより藤氏もより

きりぎりすのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

大史

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

藤原殿女御母故山音

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

中君母御

大史

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

藤原殿

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

頼中侍

藤原殿

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

八景若

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

玉鬘若尚侍母夕顔上

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

おのゝちのうらみも
さきかへりてあやう
くさくさのうらみも
さきかへりてあやう

八代若

松程一踏歌の時よりいめてあり人歌
の程葉の山幸に如く忠義なりしは
玉鬘尚侍母夕顔と

四のく夕顔のうのあしよりくはく
くより幸経と玉鬘此巻にまきのあは
くらくうの尚侍松程一鬘より山幸
弘徽殿母母拍子

弘徽殿にまよて内より給
夕藉大信室母按察之助より余は山幸
雲井此よりくくくくくく人

山江若

く誰をくくく名乗り

三條右政大臣

朱雀院の母わく此祖又くあつた
信ありくく政大臣くくくくくく

藤大細云

頼弁

く此く白虹日御津くくくくくく

素景殿女

朱雀院の信り時の女御くくくく

中位

くわく若くえく三好坊信郎の
くくくくくく花くくくく色あ
くくくくくく人

右中辨

此二人の信成むらり月夜よりく
くくくくくく車に人をはきて
給くくく弘徽殿より出給くくく

しつゝありて花をまてくろ色ある
るはさる人

左中辨

世二人の源氏むらり月夜ゆき車守り
引くくわの陣の車に人をはきてんを
終へては源殿より出給へりゆき
とんと又拂り奉り中辨のまけり
ころもいんまや

源殿大和

半権院の山母ありの山屋を和ら
わらうと若菜らちか
師まゆ言 花のえんり奉りみゆ
致仕の后室 四喜のまき
五志 花のえんり奉り

勝月夜高侍 ありの半権院のまき
まき 同中辨の二月は高侍よりあり
まおあり新之巻のまき

右大臣

このまきより格段よりなりてなほ
まき

女御 冷泉院御信り時の女御格段より

右大臣

梅のた大臣よりありはけい人あり

大藏卿

條理大臣

此二人世の御よりありありあり

藤壺女御

今上春官の御よりありありあり
り中言のまきありありあり

條理大史

此二人世所の事なり

藤壹女御

今上春官の御時より事り給ふ御
乃中より事り給ふ御女二女より事
り給ふ御事給ふ御事り事り給ふ御
又折々事景殿と同一事り給ふ御

大史

事り給ふ御事

女 夕暮の折に御子宰相中将親人が

将一御事り給ふ御事

大史

今上御事り給ふ御事

縣軍本政大臣

胡蝶の太刀物より事り給ふ御事
乃太刀物より事り給ふ御事
乃太刀物より事り給ふ御事

賴中將

源氏大將より事り給ふ御事
給ふ御事

兼青殿女御

兼青殿の女御今上御事り給ふ御
乃御事り給ふ御事

藤中納言母事り給ふ御事

乃御事り給ふ御事

朱権院の女舎今上り山母にむかひ

藤中納言母御名女一宮

信賴とすりやう殿とすりあり
市川正月にも母の尚侍のしるし
うらふ人せりあふ高日まのり

次郎君母御

まはれ程のふりやう母の御名は
まの父の御名にまはれ御名

右大臣母御

若菜下の女舎の時に此節少くは
朱権院の御名に日まのりやう
川中物にまのり巻に右大臣
相ふまのりまのりまのり
御名にまのりまのり

右大臣母御

此二人も御名にまのりまのり
まのりまのりまのりまのり
賀の御名にまのりまのり
右大臣の巻にまのり

頼中將母御

市川正月にも母の尚侍のしるし

真木頼上母御

まのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのりまのり

如御母御

市川正月にまのりまのり
子宰相中將の御名にまのり

同... 時中方に... 此程... 初...
... 人

女御 母玉鬘等尚侍

市川内月... 院... 年... 給... 言...
子宰相... 時... 心...
尚侍 母... 打...

市川... 母... け... 尚侍...
... 言... 給...

大臣

吉備御息所

十六... 前... 言... 給... 年... 此... 中
... 十九... 言... 是... 行... 中
... 言... 中... 言... 中
... 言... 中... 言... 中

大臣

女御 宇作... 女御

大臣

鹿景殿女御

花散里

大臣

常陸守

... 言... 中... 言... 中
... 言... 中... 言... 中
... 言... 中... 言... 中

常陸守

... 言... 中... 言... 中
... 言... 中... 言... 中

常陸守書

此の書より...
...
...
...

...

常陸介書

うらけまの...
...
...
...
...

木信

入道橋本書

山本中...
...
...
...
...

卯石...
...

松月...
...
...
...

保家大納言

雲林院清師

保印...
...
...
...

桐壺更衣

保印...
...
...
...
...

さうはしき

桐壺更衣

信郎の妻と云ふ事ありて之を信と云ふ
もろくありぬ事ありて海をゆく時
てくる由をいふ事ありて野をゆくも夜
に信と云ふ事あり

梅家大納言

業上母 母山信郎様

梅家大納言

早節君し女と云ふ事ありておとまり
てはしき事あり

木将

故木将の事ありておとまり

左衛門将

左衛門将の事あり

権中納言

権中納言の事あり

左衛門将

信郎中門の事ありておとまり
小君の事ありておとまり
く多し開廊の事ありておとまり

空輝君

空輝君の事ありておとまり

あつたは陸子と云ふ事ありておとまり
開廊の事ありておとまり
く多し開廊の事ありておとまり
陰の事あり

右衛門将

女中御尼

中納言の事ありておとまり

院...
...
...

右衛門督

女母山沖尾

中納言...
...
...

左衛門内卿

明石乳母 母院官旨

源氏...
...
...

三信中納言

夕顔上

結成...
...
...

宰相

言右君

あつ...
...
...

左藤原惟光

ふ...
...
...

かゝるお氣を又けり梅の枝に言お
山河國梨 二進三つめり夕影に思ふ
侍命女 夕影の巻に思ふ
三河お妻 夕影の巻に思ふ

忠臣尉

忠臣の殿に思ふ夕影の巻
夕影の巻に思ふ梅の枝
尉に思ふ夕影の巻に思ふ

義曲侍

忠臣の侍に思ふ夕影の巻
忠臣の侍に思ふ夕影の巻

赤橋磨中

源義治

若葉の巻に思ふ夕影の巻
若葉の巻に思ふ夕影の巻
若葉の巻に思ふ夕影の巻

忠節

若葉の巻に思ふ夕影の巻
若葉の巻に思ふ夕影の巻

忠臣

若葉の巻に思ふ夕影の巻
若葉の巻に思ふ夕影の巻

辨尾母

若葉の巻に思ふ夕影の巻
若葉の巻に思ふ夕影の巻

伊与外

若葉の巻に思ふ夕影の巻
若葉の巻に思ふ夕影の巻

紀伊守

若葉の巻に思ふ夕影の巻
若葉の巻に思ふ夕影の巻

伊与外

昔の昔と内々人海へ渡り子孫
くちの海へふくむるにありと聞
屋よはかり内をいふ也

紀伊守

皇印御さる中川の家ありと聞
河内ちふあつあをありと聞くに

飛人右将監

源氏大将と討信の山嶽より
新州一國よりと大物原に備
よりしる所はり殿上の山をさつ
海の印にて新原討はありは
あり給き

飛人将妻

うそをいふまうととち保成
乃おけの長ちのねとわたり
しとてつと信とつとあり

常陸介

いふみらたり守はあり

飛人武部直母女

あつとやいふは保と白

飛人右将監母女

董大物とけしゆりと
ありとありとありとあり

董母女

とありとありとありとあり
とありとありとありとあり

源氏細言母女

源氏守妻母女

小將女母女

手習りありとありとありとあり

そつとさき一人

原の細き妻 母の書

彌生守妻 母の

小持の言 母の言

手習の妻の言 小持の言 母の言

木事木部

浮舟の舟の言 母の言 母の言
母の言 母の言 母の言

瓶部言 又の言 母の言 母の言

早部

浮舟の舟の言 母の言 母の言
母の言 母の言 母の言

木事木部

夕部 母の言 母の言

書法部

又の言 母の言 母の言
母の言 母の言 母の言

浮部

母の言 母の言 母の言
母の言 母の言 母の言

母の言 母の言 母の言
母の言 母の言 母の言

書部

母の言 母の言 母の言
母の言 母の言 母の言

書部

母の言 母の言 母の言

木部

母の言 母の言 母の言

のりね

皇太后

皇太后御

大輔

大輔御

桐壺

後涼殿更衣

桐壺更衣

桐壺更衣

おつれすけ

おつれすけ

典侍

おのり

藤壺御

大御所

内侍

さしり

御本

右馬頭

右馬頭

右馬頭

大納言

大納言

大納言

中納言

中納言

中納言

中納言

中納言

中納言

空輝

氏部

夕顔

大納言

大納言

大納言

中納言

中納言

中納言

夕顔

夕顔

夕顔

若葉

小山

小山

小山

紫上

紫上

紫上

小納言

小納言

小納言

辨

辨

辨

若葉

若葉

若葉

若葉

花教里

兼景殿花教里の母

花教里上三君

女部花教里の母

貞麿

花教里上

中御君君景

宰相君夕

世に継母

兼景殿花教里の母

少御君乳母

中務花教里の母

中御日

主命女

小山花教里の母

中御君君景

少枝花教里

花教里上

大御山君

中御上母

喜美花教里の母

山

女上官

中御上母

花教里

徳平

夕霧花教里の母

中務花教里の母

中務日

花教里

故院宣旨

兼景殿

攝津守

前官女別當

前女内侍

新美花教里の母

道生

侍

新院花教里の母

大御妻

大御花教里の母

大御花教里の母

主命花教里の母

花教里

新美花教里の母

南屋

繪合

前新官女別當

修理宰相

平内侍の母

侍花教里の母

少将花教里の母

大御花教里の母

中御花教里の母

皇孫花教里の母

三子花教里の母

花教里花教里の母

花

花教里

中御上母

中務花教里の母

花教里

頭花教里の母

皇孫花教里の母

中納言女日 兵部令女日 三ノノリ維所
近江中將兼近江守 少輔

花散里 中納言女日 中納言日

兵部少輔 頭中納言 兵部令

兵部令 兵部令日

藤雲

中納言女 少將中納言兼 花散里

中將日 兵部一玉は 兵部令

權

權近衛宣旨 源典侍 花散里

巳女

權近衛宣旨 兵部夕暮 兵部令

中納言日 兵部入子 兵部令

兵部少輔日 大内記 雲井乃母權兵衛

少將兼 宰相兼 雲井雁乃母

兵部侍母 花散里 雲上健母

玉鬘

右近 大吏監 少部妻

三條 花散里

初子

中將 花散里

胡蝶

中官亮 右と 乃と

藤

大吏監

常夏

近江若母 兵部令 妙法寺別當

たけの木の若日 中納言若日

篝火

菅

大史監

常史

近江君母

皇節君

妙法寺別當

たけの木の君（近江の君）

中納言君日

篝火

右史

右史大史

野合

宰相君（右史）

内侍日

花散

右馬物（右史）

行幸

右大臣

知人右大臣

蘭

辨（右史）

桂程

弁士

右史君

右史

宰相（右史）

梅

大郎（右史）

花散室

内侍（右史）

右大将（右史）

右大臣

宰相此雁乃也

右大臣（右史）

藤程葉

中務美日

中務官

右史右史

権傳師導師

雲井乃母

右史乃母

花散

たけの木の君

宰相乃の

右将

右女将

若菜上

生権院乃藤乃母

右史乃の

右中弁（右史）

右大臣

右大臣

中務権亮

山登

若原上

生権院の藤代母 まゝ

右中弁 まゝ

右大臣

中直権亮

山権亮

世に継母

中務 ま

中弁

中幼女若

御泉御司

脚目夜の中幼女若

中幼女乳母 まゝ

左大臣

頭中侍

藤原

花散

中右大臣

春官宣旨典侍

小侍 まゝ

同下

世に継母

中右大臣

中務若

信都 ま

花散

一保山息女 藤原

小侍 ま

侍 乳母 まゝ

柏木乳母 ま

新院

梅家若 ま

信中侍

柏木

小侍

葛城山行若

柏木乳母

中宮大史

一保山息女

小侍 ま

横笛

一保山息女

藤原

少将若若若

夕霧

一保山息女

律所

中侍若

大史

大史若若

左大臣

大和守 一保山息女

鈴虫

中三官若若

右大臣

佛

花散

幼

中幼女若

中若若

花散若若

鈴虫

女三官の女と 武部痛

古馬宮

佛信

在教里

幻

中納言志

中納言志

在志の志

僧部

佛名導師

白美

紅梅

梅家大納言故山守

市門

大坂の君

おきき

中將志

橋志

阿國志

小侍志

柏木志の志 弁在母

右近將監

権志の志

阿國志

鑑志角

あ志り

中官志大志

子志殿

阿國志

た志る志の志 中志大志の志女

三志奇志生

上志野志主

お志京志大志 白美志の志侍志 小御志南

僧部

梅家志主志 思志人志

あ志り

お志京志大志の志君

小將志 中志大志の志女志 中志大志の志女志 中志大志の志女志 中志大志の志女志

東志屋

源志の志細志主

讀志味志守

た志る志

厚志和志君志の志女志 右志近志 だ志る志の志女志

小將志 中志大志の志女志

年志重志程志 中志大志の志女志 中志大志の志女志

中志大志の志女志

侍志 厚志和志君志の志女志

淳志舟

阿部氏 下子乃君

上野文 白美乃侍 僧都

梅家志 あり 下子乃君

小将 牛妻乃若 申文大更 あり 此の日記へ

東屋

原久細言 讀味守 下子

厚和君乃此と 右也 下子 中志

年重程 申美大更 右也 厚和君乃若

厚舟

下子乃君 將志 右也 厚舟乃若

大内記通定 厚舟乃若の

出言指守時言 厚舟乃若の

大内志物仲信 厚舟乃若の

同情守 厚舟乃若の

厚舟乃若の此の

白美乳母 厚舟乃若の

精舎

右公厚 厚舟乃若の時言

侍唐志 厚舟乃若の此の

同大内乃若の此の

うとわり 仲信 阿国和 厚舟乃若の

小室相 大部 大細言志 厚舟乃若の

馬取 厚舟乃若の母

辨の折 申物志 厚舟乃若の

平初

横川僧都 同信部中子 小野大内 厚舟乃若の

衛門督後家尼 厚舟乃若の

女将尼 右也 厚 厚舟乃若の

中物 厚舟乃若の

厚舟乃若 厚舟乃若の

辨の持知美の女房 中物一玉女房

手習

横川僧都 同僧都中子 小野大尼信都母

衛門督後家尼信都妹 一原山息所

女持尼 右也一原 信都

二のり 三のり 中物信都母

源所信都中子 兼中物信都母

三のり 山座一玉女房

小物尼信都母 信伊守大尼妻の

信伊守大尼妻の 宇治清所

夢浮橋

横川僧都 小野大尼 小野大尼

信伊守